第 2 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議
議事録

■　開催日時・場所

平成 28 年 3 月 10 日（木）10 時 00 分～11 時 30 分

美祢市役所本庁舎 3 階委員会室

■　次第

1　開　会

2　会長挨拶

3　議事

（1）美祢市生涯活躍のまち構想（素案）について

（2）その他

4　閉　会

■　配付資料

1　「美祢市生涯活躍のまち構想（素案）」：資料 1

2　「第 1 回有識者会議における委員意見に対する対応」：資料 2

3　第 2 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議　配席図

4　第 2 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議　会議次第・出席者名簿

5　美祢市生涯活躍のまち構想策に係る意見調査票

■ **出席者名簿**　　敬称略

区　分		氏　名	出欠席
委員	山口県宇部健康福祉センター所長	惠上　博文	出席
	山口県総合企画部審議監	北村　敏克	出席
	美祢市生涯学習まちづくり推進協議会会長	篠田　清臣	出席
	美祢市病院事業管理者	髙橋　睦夫	出席
	美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会長	竹岡　昌治	出席
	山口大学経済学部教授（地域福祉社会学）	鍋山　祥子	出席
	美祢市シルバー人材センター理事長	西村　元和	出席
	美祢市社会福祉協議会会長	弘利　眞勝	出席
	山口大学経済学部教授 （美祢市産業振興推進審議会会長）	古川　澄明	出席
	美祢市市民福祉部長	三浦　洋介	出席
	株式会社山口銀行地域振興部長	山西　　淳	出席
事務局	美祢市総合政策部長	藤澤　和昭	出席
	美祢市総合政策部企画政策課　課長	佐々木　昭治	出席
	美祢市総合政策部企画政策課　課長補佐	岩﨑　敏行	出席
	美祢市総合政策部企画政策課　主査	石川　博之	出席
	美祢市市民福祉部高齢福祉課　課長	河村　充展	出席
	美祢市市民福祉部高齢福祉課　主査	重廣　聡子	出席
委託事業者等	NPO 法人高齢者健康コミュニティ代表	窪田　昌行	出席
	株式会社 YMFG　ZONE プラニング　部長	澤田　一美	出席
	株式会社 YMFG　ZONE プラニング　課長	松本　真治	出席

■ **議事録**

1　開　会

（説明略。事務局から開会の宣言と資料の確認が行われた。）

2　会長挨拶

鍋山会長　年度内、今回 2 回目の会議ということで、前回 1 回目では皆さんより非常に多くの意見を頂いた。

皆さん方の思いを是非形にしたいと思っており、本日お配りしている 2 回目の資料となっている。

前回、今回、次もあるが、時間が限られている中で、今回 2 時間設定されていることから、ご意見をより多くいただき、それを次につなげて行きたいと考えている。今日は大事な会議であり是非宜しくお願いしたい。

3　議事

(1) 美祢市生涯活躍のまち構想（素案）について

鍋山会長　早速議事に入りたい。前回と同様に、ご発言、ご質問等がある際は、私の方に挙手でお知らせいただき、ご指名させていただいた後にマイクでのご発言をお願いしたい。

ではまず、「美祢市生涯活躍のまち構想（素案)」について、事務局からの方から資料を基にご説明をお願いしたい。

事務局　今回、資料 1 として「美祢市生涯活躍のまち構想（素案)」という形でお示しさせていただいているが、前回からの変更箇所等を主にご説明をさせていただきたい。

この構想の全体の作りとして、なぜこのような構想の形としているかというと、美祢市としては、移住者のためだけの構想ではなく、まちづくりの一つとして、今住んでおられる美祢市民第一と考えている。

美祢市に住みたくなる要素として、美祢市民の幸福感を高めていきたいと考えており、その幸福感が高まれば結果的に美祢市に住みたくなるというような要素も高まると思われる。

それを市外の美祢市にゆかりのある方々や、その他県内及び県外の出身者へ情報発信をしていくことで、美祢市に住みたい、住み続けたいという移住の動機付けにつなげていきたいと考えている。

（説明略。事務局から美祢市生涯活躍のまち構想（素案）に関する資料について説明が行われた。）

鍋山会長　今説明を頂いたが、主に 10 頁以降について質問、ご意見などがあれば発言いただきたい。

北村委員　随分具体的な内容になっているが、その中で、東京や近隣の大都市圏から人を呼ぶという観点が非常に大事である。そうした時に、たとえば 15 頁で趣味などと書いているが、美祢市は山陽にも日本海側にも瀬戸内海側にも近いという地の利を活かし、構想では川釣りと書いているが、瀬戸内海側でも釣りが楽しめるし、そういったアピールするところをしっかり書いていった方が良いのではないか。

その観点から、交通のところで、近隣への生活交通に加えて東京や福岡、広島へもアクセスがいい。新幹線がある、インターチェンジがある、あるいは空港がある、その辺をしっかりアピールするべきところはアピールしていくべきであり、もっと書き込んでいった方が良い。

あと、農業のところで、今 10 アールから農地を取得ができることは、県内でもレベルが高いが、実際には、やろうと思えばもっと家庭菜園的なもっと狭い面積の取得も制度上で可能である。それをここに書き込むかは分からないが、広い所も空いていることか

ら、ある程度方向的に示すことができれば、そういった施策も検討してはどうか。
それと、CCRC は高齢者に来ていただきたいということもあるが、介護人材や医療人材などで若い方に来ていただくというメリットもあるので、そこももう少し打ち出してはどうか。

鍋山会長　今の若手の人材のところは重要であり、労働のところなので例えば 22 頁の雇用の創造に入れていくのか、想定のモデル入れていくのかを検討したい。

山西委員　作り込みが良く、この短期間で非常に修正が上手い方向に行っていると感じている。
ただ、民間として、結局美祢の魅力は何かがポイントになっており、やはり民間からするとジオパークが今のトレンドである。それであれば施策の中に嫌というほどジオパークを散りばめてしまうのも一つの方法である。
美祢市を他の地に置き換えたらどこも一緒ということではなくて、これにもジオパークが付いてくるみたいな、嫌になるほどアピールし、それくらい特徴を活かし、生活の一部になっていく様なことを思い切り斬新に打ち出していくことも必要である。
今後の基本計画で出していくかは分からないが、そういった決心の様なものがあれば良いのではないか。

鍋山会長　構想段階なので、作る方も悩むところが特徴をいかに出していくか、入れていくかであり、その辺りの工夫の提案を頂いたと思う。

竹岡委員　19 頁において、移住者支援について 3 項目で挙げているが、私の身内の経験から申し上げると、東京の八王子にいて 1 年半かけてこの美祢市を中心にずっと環境や土地を調べながら、ようやく美祢で落ち着くのかと思ったら宇部市を選んだ。
最大のポイントは、海があるからというだけで、今になって後悔しており、やっぱり美祢が良かったと言っている。
彼は、1 年半かけて独自に夫婦で移住地を探していたが、どこに行ったらこうしたアドバイスを受けられるのか、どのまちがどんなことをしているのかが分からなかった。
ここが重要であり、仲介役や調整役のようなアドバイザー制度を柱として入れるべきではないか。

鍋山会長　今回は構想、計画の段階であるが、今後実行に移す段階の移住者支援の要として、情報を集約するところを入れるというのも基本計画では必要となる。

西村委員　14 頁のイメージ図について、中心に家を置くと地域包括ケアシステムのイメージ図になるのではないか。
また、下の美祢市出身について、確かにそうだと思うが、今言っているのは東京圏ではなくて、大都市圏の人の中から美祢市出身者をもう一度呼ぶということではないか。

鍋山会長　イメージ図を見た人が、自分が真ん中にいて地域包括ケアシステムの土地に囲まれている方がイメージし易いかもしれない。
また、ここでは美祢市出身者のところを大きく書かしていただいているが、その中に美祢市の出身者もいるし、もともとゆかりのない方もいることから、美祢市出身者が実際には多いかもしれないが限定した形に見えやすいのではないかといった意見であった。

古川委員　すばらしい構想で、前回の意見がよく反映されている。

もう少し基本的なところを申し上げると、問題は美祢市が結果を出す気があるのかというところを常に考えていて、スケジュールと中身に問題がある。

企業の場合、何を造るのかというデザインと設計があり、そのためにロジスティックスを組んで、コスト計算をして、利益計画を立てる。一方で農家の方は、作るのはとても上手だが売り方が下手だから売れない。良い物を作ることとそれを売ることをつなげられれば成功する。そのために大事なのはスケジュールである。

せっかく委員として山口銀行様も入っており、そういうシンクタンクなどのアイデアを、フォーラムやワークショップで提案して貰って、それを議論する。

シンクタンクならどういう提案をするのか、あるいは結果を想定するのかを聞きたい。なかなか行政や委員だけではできないと思う。他のシンクタンクなどからの提案に基づき議論し、その中では、いくら投資をして、どういう手順でやって、どういう結果を出すのか。

そして、評価を問われるので、その結果をどう評価するのかを決める。評価を問われるので、その評価のシステムをどうやってやるのかを方法論として明確に示さないと、だいたい計画を策定して、また次の計画を作成して、結果は後で出るからと言って、その結果を後で見た時に、悪かった、仕方なかったみたいなことになる。

そうならないように、最初から何を作るのかという戦略が必要。その商品が売れるというように想定しなければならない。そうなれば機能の中にどういう内容を盛り込んでいけば良いのかが見えてくる。

一つ提案であるが、スケジュールの中にどういう完成が想定されるかをシンクタンクに聞いて、フォーラムやワークショップやセミナーを盛り込んだ上で審議会にかけて、我々が結果を想定して議論し、その終着駅の結果を目指して頑張る。その結果に対してさらにどういう評価を下すかが大切。

企業の場合は失敗すれば赤字であり、身売りを迫られるなど明確である。今のままでは努力をするが報われないことになってしまう。

鍋山会長　よく自治体は企画をするが、後はどうなったかがよく分からないことがある。

今回、今年度の構想段階で方向性を固めて、先程の説明によると来年度から、今回の方針に基づいてそれぞれの分野で協議会などを立ち上げて具体的な案に落とし込んで行くというような説明であったが、いくらそこに予算をかけて、いつまでにある程度の結果を出すのかというところの、もっと具体的なスケジュールを出した方が良いというような意見で間違いないか。

古川委員　それは違う。これは構想だから、たくさん構想を出していい。

問題は次のステップで美祢市はどういう結果をイメージや想定をしているのかである。山口駅であればこんな駅を作るという結果が想定されており、その先に何をするかという手順がある。それはモノづくりと一緒であり、モノづくりは作れば結果が出る。作ったものが良いものであれば売れるが、失敗すれば仕方ないでは済まない。

最初からきちんとしたシナリオを描く。そのためには、審議会ではなかなかこういうことはできないので、シンクタンク等に提案していただく。シンクタンクは発言や結果

に責任を持つくらいの提案をしていただき、それに対して我々が評価すればよい。それをしないと結果は出ない。

事　務　局　結果を重視して、結果に向かって工程を組む考え方は、仰るとおりである。

市としては介護が必要な人を受け入れるにしても、今後高齢化が進む中で、介護従事者を充実させていく必要があることから、平成 28 年度より介護従事者の確保にも取り組んでいく。そういう取り組みを行っていくための構想として、一つ一つであるが実施していこうと考えている。

美祢市には 2 つの病院があり、それを最大限活かして地域包括ケアに取り組んでいく必要があると考えている。具体的には、先ずその取り組みから実施していきたいと考えており、今後基本計画を策定する中で、より具体的に織り込みたいと考えている。

古 川 委 員　良く分かるが、構想はたくさん出して、そこからチョイスすれば良い。問題はスケジュールであり、ロードマップである。

その中で、ここにはベンチマーキングが無い。欧米、ヨーロッパが取り組む時には必ず結果が全てである。統計で出して、どれだけ利益を出したかが重要である。山口コンベンション協会などがそういった評価するシステムを持っている。行政の絡みであり、どれだけ利益を出したかという利益換算するシステムを JR が開発していて、それを入力すると自分のところがどれだけ客を集めたかという結果が出る。

システムはたくさんあり、結果を評価できるようなものを組み込んでいくことと、ベンチマーキングをして、成功している国内外の事例で学べるものは学んでいく。それに対して我々の中で独自に仕上げていくかということが大事。企業は必ずベンチマーキングを実施したり、A社が新しい車を仕上げたらＢ社は買い取って全部バラして検証する。そういった企業努力をしていることから、ベンチマーキングが非常に大事である。

それと、もう一つはシンクタンクがいるので、そのスケジュールの中に組み込んでご提案いただく。そのことをスケジュールの中に織り込む。

あとは構想をたくさん議論して、どれが良いかについて、すべては入れられないし、実現できないので、段階的に実践していくというメッセージがこの辺だなというイメージを描ければ良く、どの構想を採用すれば良いかという話である。

一番大事なのは、手順。その中に、いろいろな技術を入れて行く。私が申し上げているのはスケジュールだけの話であり、構想はすばらしく、たくさんあるので良いと思う。

事　務　局　仰るとおり、成功事例を参考にして、成功するために頑張らないといけないと思うので、今頂いたご意見は最終案を作る中で書き込めるところは書き込み、これで終わりではないので今後基本計画を作っていく中で、反映させていきたい。

竹 岡 委 員　7 頁の（5）の地域資源について、確かに大嶺町東分地域、美東町大田地域、秋芳町秋吉地域と書いてあるが、今残念ながらこれがもしネットで出て見られたら行政はそういう認識なのかと言われると思う。秋吉地区の住民の皆さんは店舗がほとんどなくなると認識していることから、私は違うのではないかと思う。

9 頁について、社会復帰促進センターなどと書いているから良いとは思うが、良いか悪いかは別として、美祢市の小さな学校単位、いわゆる小規模校の生徒がいなくなって、現在は地域の交流の場として提供している。そうした小規模校が地域の交流やコミュニ

ティの場として提供されているし、今後もできてくるということで、現状認識をもう少し変えた方が良いのではないか。

事　務　局　7 頁の地域における店舗の件について、作成する途中に店舗の撤退という話があり、この件については地域の方々が誤解を受けないように適切な文言に変えていきたい。

また、交流拠点施設についても、現在利活用がなされているので是非記載をする形で対応したい。

鍋 山 会 長　今のご意見は想定モデルの中にも是非盛り込みたい。各地で小学校の利用を基にした地域活性化等もモデル地域として事例があることから、是非そういうことも担っていければ良いと思われる。

鍋 山 会 長　少し構想とは外れるかもしれないが、是非皆さんにお尋ねしたい。

今回は構想と言え、実際にどう実現していけるのかを常に考えながらの構想作成になっているところであるが、地域づくりに非常に大事なのが、上からの構想も大事であるが、地域に担い手がいるかということがポイントである。

美祢市の住民力として、ボランティアとはあえて言わないが、起業したいとか、地域の人達の間のグループで元気な動きがあるなど、そういったところはどなたにお尋ねすれば良いか、どなたが情報を持っているかを教えていただきたい。

竹 岡 委 員　古い学校区であるが、昭和 40 年代に統合した伊佐地区の学校の跡地について、小学校と中学校が 1 校ずつであり、意外とまとまりが良い。その旧校舎跡地にコミュニティセンターを昨年建てていただいた。

それを建てる前に、地域おこしのための地域を代表する会長、副会長を決めて、自治会や老人会、子ども会をその組織に入れて、会長の期限のない会則を作り、その会長、副会長の 3 名を地域のリーダー育成に 5 年間かかった。それと平行してコミュニティセンターの建設運動も行い、県にも相当協力いただき地域おこしを行った。

その他の地域にもリーダーはいるが、それ以外で動いていないのは、地域のリーダー不足である。地域のリーダーが育っているところは良いが、いくら上から施設を作っても成功しないし、逆に下から施設を作って欲しいと上げてきた場合には成功している。

地域リーダーをどう育てるかは大変な問題である。

篠 田 委 員　21 頁の活躍の場作りについて、まずは地域が元気にならなければならない。受入れ態勢で、ちゃんとした地域の活動がなければ受け入れができない。各小学校校区でいろいろやっている。公民館よりももう少し狭めた地域で運動会や盆踊りなど、地域をあげて小さい子どもからお年寄りまで中心になって盛り上げていくということを今やっているが、リーダー、引っ張って行く人がいなければできない。私が提言したが、リーダーを養成しなければならない。

21 頁には、生涯学習など実施されている項目もいろいろあるが、地域から盛り上げるということが必要であるということをお願いしたい。

鍋 山 会 長　地域づくりのリーダーもあり、人材作りについても項目の中には人材育成・確保とは書いてあるが、地域のリーダーの養成といったところも是非入れていただきたい。

竹 岡 委 員　古川委員も言われたように、コミュニティセンターを作ってもらおうというのも 5 年

くらいかかった。それも26年に目標としてやったが、27年になってしまった。1年遅れたということであるが、要するに何年ごろまでに何をするのかが大事。美祢の場合も、どこを狙ってその人達にどう来てもらうか、それをいつまでにやるのかを決めておかないと進まない。議論ばかりしていても仕方ない。

企業であれば何を作って何を売るのか。確かにこの中にあるが、農産物を加工しても売る場所がない。観光地でも売ってないし、美祢コレクションもかなりの品目を設定しているがどこで売っているかも分からない。結局売る場所がない。そのためには何をどうして行くか、いつまでにやるかを決めることが大事である。

鍋山会長　今後結果を立てたら、次にどれくらい成果が上がったかを検証しながら実施していくことが必要である。

古川委員　今の発言は非常に大事である。つまり方法が大事で、誰が考えるかといえばプロの力が必要である。しっかり考えていただいてこういうのがありますよというご提案をいただき、それが良いか悪いかを皆さんで議論して決める。皆さんでいろいろ出せば良い。それで、シナリオを作って貰って、それを議論に何度もかければ現場からの声も出てくる。

先程から議論されているように、大事なのは実際の生活者が参加し、そこからアイデア聴取し、それをシナリオの候補にプロが落としこんでいく。プロだけでやらせると頭でっかちになってしまうので、現場の声が大切になる。しかし、描き方はプロであり上手であるから任せれば良い。

北村委員　エリア型であれば事業者に任せておけば割と簡単であると思われるが、タウン型になると結構大変で、どこのシステムをどう回していくかを一つずつ決めていかないといけない。

そこは、これからの事業計画の中で、どういった事業者が入ってきて、どういう資金計画で、どういうスケジューリングでやっていくのかをしっかり詰めていただきたい。その辺のニュアンスを基本構想策定の中に書くことが必要。

それと、まず魅力のある地域を作るためには、リーダーは非常に大事である。中山間地域体制を進める上では、しっかりしたリーダーがいるのといないのではものすごい差が出てくるので、そこの養成というところはしっかりと書き込んでいただきたい。

あと、特にタウン型なので、少なくとも来ていただく都会の方に地域が魅力あるものと思っていただけるかどうかと、移住者の支援を地域がやっていくという部分があるので、安心して住めると思っていただけるようなフォローが出来るかどうか、そういう面での地域おこしのリーダーというか、移住者を支える地域のリーダーの養成をしっかり書き込んでいただきたい。

高橋委員　CCRCとは違うかもしれないが、やはり美祢市を20年後、30年後、あるいは5、60年後まで活力のあるまちにしようと思えば、高齢者の方を呼び込んでCCRCを作るのもいいが、若い人に積極的に構想に入っていただき、継続的に美祢市がアクティブでいられるようなそういった構想が必要であり、この後の基本計画では検討していただきたい。

弘利副会長　社会福祉協議会の立場として、これはCCRCとしてはっきりとした目的を持った構想であると思うが、社会福祉協議会は、地域の人がいかに幸せになれるかを考えており、今

の時代は公助がなかなか望めない中で、自分の出来ることは自分で行い、助け合えることは助け合おうと、たくさんのボランティアを抱えている。そういう団体もたくさんある。

そういう部分で、市には総合計画や福祉計画が策定されているが、それとの関連について、こういう構想ができた時に移住を考えている人達が何を見るかというと、地域の人達がどのような豊かな暮らしをしているかということが基準になるのではないか。やはり、地域の人達が幸せに暮らしているから、そういう生活を移住者自身も出来るのではないかと感じてもらえるかが大きなポイントになる。

そのことから、市の総合計画や福祉計画との関連はどうか。本来の美祢の市民が、これが出来れば 20 年先、30 年先にはもっと活性化できた地域づくりが出来るといったことは分かるが、今住んでいる人達が、自分達はどうなるのかと思われるとマイナスとなる気がする。

それと、若い人にボランティアの気持ちを植え付けるのが大事。平成 22 年に水害があったが、その時に高校生のボランティアが 1 日目に疲れたと言い、学校に行けと言われたから来ただけで、もう自分の責任を果たしたと言っていたが、2 日後にもう一度来て、被災者を心配してもう一度来てもいいかと言って来た時は嬉しかった。

今は高校でもボランティアグループがあり、お年寄りの世帯を回って電灯が切れたり配線が切れたところを電気科の生徒が直したりしており、そういう若い人達のボランティアを今後は入れていかないといけない。最終的にはそれぞれのグループのリーダーが大切で、農業もそうであり、元気な地域には立派なリーダーがいて、そのリーダーが自分の地域だけではなく、もう少し幅広く活躍していただき皆を巻き込んでもらえると良いと思う。

今後はそういう、自分が出来ることは自分が、共に助け合うところは共に助け合あっていける、そういう思いの持てるリーダーを作っていきたいというのが、私たちの団体の思いである。

事　務　局　高橋委員からのお話については、次回の基本計画を作る際は若い方を入れて計画等の審議をいただきたいと考えている。

この計画が市の他の福祉の計画とどう関連しているかであるが、高齢福祉の担当課も出席しており、市としてはこの計画だけが独り歩きするのではなく、当然そういった市が作る計画と相互連携しながら、それに沿った形でお互いが影響し合うかもしれないが、そういった中でこの計画を進めていきたい。

また、市としても、老若男女障害の有無に関わらずということでこの計画を進めていこうとしているが、そういう地域づくりを考え、地域づくりは人づくりということであり、その辺もこの構想の中に書き込んでいきたい。

古 川 委 員　若い人をどうやって呼び込むのか。

事　務　局　なかなか難しいと思うが、山西委員も言われたとおり、今移住をされるといった方は、把握している限りでは、都市間の生活レベル、自分の生活レベルがどのように変わるといったこともあるが、自分がどんな生活ができるかと考えている方も多いようである。その一つの結果として、総務省が開設した「全国移住ナビ」の移住プロモーションビデ

オのアクセス数において、本市のジオパークや秋吉台をテーマとし、アニメを利活用した動画が全国で 5 位になった。丁度ジオパークの認定もあって移住を検討されている方が、そういう面で自分がどういう生活が出来るかというのが関心事となっているのではないか。都会と同じレベルの生活はできないかもしれないが、自分の思う生活を送りたいと考える人を呼び込んでいきたいし、いけるのではないかと考えている。

古川委員　住んでいる人間が楽しくなくて誰が来るのか。やはり過ごしている人間が楽しくて、住みたければ住まわしてくれというくらい楽しいまちならば住みたいと思う。

山口市は人口が増えており、山口市ならマンション買って住んでやろうという人は結構いて、それは住み良いからであり、最初に申し上げたベンチマーキングがとても大事で、成功している市町村が日本にはたくさんある。そこにはなぜ人が集まるのかということから学ぶことが大事。

高橋委員が言われたとおり、若者がいないとまちは 3 万をきる老人社会になる。小さい子どももいるが圧倒的に老人であり、どこから税金を貰うのか。

美祢市に産業誘致をしても、そもそも労働力がいない。企業は美祢市には労働力がないと断られる。仰るとおりで限界を超えている。

定年はないと思うので、生涯現役という自覚をしてもらう必要があり、その上で皆さんが何らかの楽しみを持って頂いて観光も含めて活性化をしていき、その中から仕事が新しく見つかれば若者が増えていく。そういうシナリオを描いて議論をすることが必要。

CCRC は産業政策の一つであり、孤立してやっていくことはそもそも無理である。その全体を市の産業振興や農業政策を含めた枠の中の一つとして横軸をしっかり作らないと、従来のように縦だけになってしまう。

北村委員が仰ったように、県や企業などはいくらでもノウハウをお持ちなので、そこと連携し、住民が楽しくならないと人は来ないので、全体の中で CCRC をどう組み込んでいくかということであり、かなり産業政策のところを皆さんおっしゃっており、これが一番難しく、横の連携を持ってやるべきであり、そうなれば上手く様々なところで回り始めるのではないか。

三浦委員　私は行政から参加しているが、素案につきましても庁内の会議の中でメンバーとして入っているが、事務局も大変苦労して良く出来ているものと理解している。

市の福祉関係であり、市サイドについては医療や社協とも連携をとって事業等を進めている。

住みなれた地域でいつまでも暮らし続けたいまちづくりをテーマに持ってこれまでもやってきたし、今後もこれに向けてやっていく。

いくつか新年度にも子育ての環境の整備などを新たな制度等を作ってやっていく計画である。

その中で、今後具体的に基本計画や事業計画を策定する中で、市の方も重要な立場となっていくと思うので、この構想段階でいろんなご意見を聞いて、それを基に様々な計画、事業計画に進み、若い人の意見を聞きながら、メンバーとして務めていきたい。

鍋山会長　色々多岐にわたる、今後の宿題にあたるような部分までお話いただいた。

先を見ながら年度内の構想の完成を目指していきたい。

山西委員　若者の移住について、民間の立場からいうと、どうやって情報発信するかというものがないと物は売れない。山口銀行が定期預金を出しても、山口銀行だから定期預金があるという固定概念の中で、お金が余ったら定期預金をする。あるいは製造業であれば新商品出せば広告宣伝をしてこれが良さそうだからと思うから買う。それは情報が伝わらないと買ってもらえない。いくら良いものを作っても知られないと売れないというところなので、17 頁のところで SNS を使った情報発信と書いてあるが、これはどこの行政でも書いてある。それであれば、美祢市で何をアピールするのかと言ったときに、防府に「ぶち防府」という民間サイトを立ち上げており、防府市と一緒になってまちおこしイベントを自分たちが実施し、それを若い目線でタイムリーにホームページにアップしている。フェイスブックのフォロワーは今 3 万人いて、皆が防府市に対して愛情を持ち、若者が愛情を持ち、こういった成功している事例を持って、今度は山口市に作ろうとしている。山口市ならすぐに成功すると思うが、具体的とはそういうことであり、構想段階でそこまで掘り下げて考え必要はないが、こういうメニューがあるというところを忘れて欲しくない。

どうやっていくかという方法論の問題を、もっとサクセスストーリーにつなげていくようなシナリオにしていただきたい。

鍋山会長　それでは、本日頂いたご意見を基に次回最終的にこの美祢市生涯活躍のまち構想を作成することになるがよろしいか。

全委員　異議なし

鍋山会長　ご了承いただいたこととし、今後のスケジュールについて事務局より発表いただきたい。

9　その他

事務局　事務局より 3 点ご連絡する。1 点目は今回の第 1 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議議事録を配付しているが、気づき等あれば連絡いただきたい。

次に次回の有識者会議において、本日頂戴した意見等を反映した美祢市生涯活躍のまち構想（最終案）についてご確認を頂くこととしており、本日以降に気づき等があれば本日お配りしている「美祢市生涯活躍のまち構想策定に係る意見調査票」を 3 月 14 日（月）までに企画政策課まで FAX またはメールでお送りいただきたい。様式は任意で構わない。

最後に次回の美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議の日時は 3 月 30 日（水）午前 10 時から行う。年度末の忙しい中で申し訳ないが、会場はこちらで行う。なお、欠席の場合は企画政策課まで連絡いただきたい。

10　閉　会

（鍋山会長から閉会の宣言が行われた。）

以上